

# キャリアに備え、グローバルな視野を育む：日本初の IB キャリア関連プログラム提供校に

2025 年 10 月 3 日 トピック：Career- related Programme (CP) (キャリア関連プログラム)

長野日本大学学園 学校長 添谷芳久、CP コーディネーター 深田陽平



写真：学校の学習風景

## 日本に資する新たな教育ビジョン

長野日本大学学園は、生徒の学習体験を時代に即した国際的なものへと刷新したいという熱い思いから、CP の導入を進めました。これは、大学受験に大きく重点を置いた従来型の教育モデルでは、生徒に現代社会の複雑な生活や仕事への対応力を養えないという問題を認識したためです。

CPを導入することにより、本校は教育イノベーションのリーダーとしての地位を確立しました。現在、生徒は、厳格な学術的な学習とキャリアに焦点を置いた学習を融合させたカリキュラムを履修できるようになり、高校在学中から自らの知識の実践的な応用を探究することが可能となっています。

このアプローチは、学業成績だけでなく、批判的思考、コミュニケーション、倫理的推論の能力の発展を重視する、より幅広い教育理念を反映しています。CPは、生徒が自分自身の学習の歩みに主体的に参加することを促し、多様なキャリアパスやグローバルな課題に対応できるように準備を整えます。

## CPの独自性

CPは、以下の3つの主要な構成要素を中心に構成されています。

- ディプロマ・プログラム（DP：Diploma Programme）科目：生徒は少なくとも2つのDP科目を選択し、これらの科目が科学、人文、言語分野で強固な学術基盤を築く土台となります。
- 「キャリア関連学習」（CRS：Career-related Studies）：生徒のキャリア上の関心に合わせて、日本大学の幅広い学部・学科と連携して提供されます。CRSは専門分野に早期に触れる機会を提供し、生徒が自らのキャリア目標を明確化し、実践的な経験を積むことをサポートします。
- CPの「コア」科目：「パーソナルスキルと職業的スキル」「コミュニティー活動」「言語能力の発展」および「振り返りプロジェクト」が含まれます。これらの「コア」科目は、リーダーシップ、協働、倫理的認識、異文化理解能力を育みます。

これらの「コア」科目を統合することで、生徒は学術的な準備が整うだけでなく、さまざまな職業面および個人的な場面で成功するために必要なスキルとマインドセットを身につけることができます。

## 現代の学習者のニーズに応える

今日の生徒を取り巻く環境は、人工知能、デジタルトランスフォーメーション、変動する経済モデルによって形作られています。CPは、実践的な関連性に基づいた先見のなカリキュラムを提供することで、こうした現実に応えています。

DP 科目は、生徒が分析力とリサーチスキルを養うのに役立ち、CRS は、工学、ビジネス、ヘルスケアなどの分野を探究する機会を提供します。この2つの焦点をもつことで、生徒は教室での学びと実践的な応用を結びつけることができ、教育はより意味のある、影響力のあるものになります。

CP はまた、中等教育（中学・高校）終了後の進路をサポートします。大学進学、就職、専門的な職業訓練など、生徒がどのような道に進むにしても、このプログラムは生徒一人ひとりの志望や強みに適応する柔軟な基盤を提供します。



写真：学習活動の様子

## 従来の高校教育からの転換

日本では、高校教育は伝統的に大学受験の準備に重点が置かれてきました。その多くは、広範な領域を網羅するものの、個別分野の掘り下げが限定的なカリキュラムと、批判的思考よりも暗記を優先する評価方法で構成されています。

CP はこれとは著しく対照的です。CP は、生徒が関心のある科目を深く掘り下げ、探究型学習に取り組み、ポートフォリオ、プロジェクト、振り返りの記述活といった多様

な評価形式を通じて理解を示すことを促します。

この転換は生徒の意欲を高め、教育を 21 世紀のニーズに適合させます。CP は、学術的能力と実践的能力の両方に焦点を当てることで、適応力、レジリエンス（立ち直る力）、グローバルな視野をもつ人材として生徒を育成します。



写真：学習活動の様子

## 「キャリア関連学習」（CRS）：未来への架け橋

長野日本大学学園における CP の最も際立った特徴の 1 つは、CRS へのアプローチです。生徒は、日本大学の 16 学部 86 学科との連携を通じて、専門的な知識と職業的環境に早期から触れる機会が得られます。

この経験は、生徒が将来について十分な情報に基づいた意思決定を行い、関連するスキルを身につけ、選択した進路に対する自信を培うのに役立ちます。CRS は、伝統的なキャリアガイダンスを超え、理解を深め、意欲を喚起する没入型の実践的な学習体験を提供します。

その結果、より一人ひとりに合わせ、目的意識をもった教育が実現し、生徒を実社会のさまざまな機会と結びつけ、未来を形作る力を与えます。



写真：学習活動の様子

## CP 導入を検討する日本の学校へのガイダンス

長野日本大学学園の経験は、CP 導入を検討している日本国内の学校に、貴重な知見を提供するものです。考慮すべき最も重要な点は、学校の教育理念との整合性です。CP は、学術的な探究とキャリアへの準備の両方を重視し、早い段階から専門的な興味を探究する生徒をサポートする準備ができていない教育機関に最も適しています。

導入を成功させるには、献身的で周到に備えた教職員も不可欠です。教師は、DP 科目と CRS の両方の内容を教え、CP の「コア」の各構成要素を通じて生徒を導く能力を備えている必要があります。適切なインフラとマインドセットがあれば、CP はどの学校のカリキュラムにも変革をもたらす要素となり得ます。

### 重要ポイント

- **国際的な認知**：CPの認定は、学校がグローバルな基準にコミットしていることを裏づけ、生徒の新たな進路を切り開きます。
- **総合的な学習**：総合的な学習：CPは学術的な厳格さとキャリアの関連性を融合させ、生徒の多様な未来に向けて備えます。
- **就業への準備**：生徒は、今日の成功に不可欠な実践的スキルと人間的な能力を身につけます。
- **革新的評価**：CPは、機械的な暗記学習を超え、探究心、創造性、個人の成長を育みます。
- **拡張性のある影響**：教育機関のサポートがあれば、CPは日本の高等教育の変革的なモデルとして機能することが可能です。